

(公 印 省 略)
三 人 第 1 5 7 号
令 和 7 年 2 月 1 日

各 区 長 様

男女共同参画センター所長 藤田 英子

情報誌「こらぼーよ 第71号2025・冬」について
(依頼)

晩冬の候、貴職にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃は、まちづくり地域活動の振興について、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、別添のとおり三木市男女共同参画センター情報誌「こらぼーよ 第71号2025・冬」をお届けいたします。

つきましては、誠に恐縮に存じますが、貴地区での回覧をお願い申し上げます。

記

- 1 送付物 ・ 三木市男女共同参画センター情報誌
 「こらぼーよ 第71号2025・冬」
- 2 お届けの枚数 各地区の回覧枚数

【担当課】市民生活部 人権推進課
男女共同参画センター
(三木市立教育センター内)
TEL : 89-2331

～市民がつくる～
三木市男女共同参画センター情報誌

こらぼーよ

こらぼーよとは
Collaboration
コラボレーション
(共同・協働)と
～しようよの組合せ

第71号
2025・冬



冬号のテーマ 市民意識調査の結果から



子育て世代のわたしが

子どもたちに期待すること



「職場における女性管理職の割合」について



年代別でこんなに違う男女の意識

「情報誌こらぼーよ」は三木市男女共同参画センターの取組を広く、市民の皆様に向け発信する情報誌です。

第71号は「三木市男女共同参画プラン(第4次)」の策定にあたり、2023年度に実施した「三木市男女共同参画に関する市民意識調査報告書」のアンケート結果(部分抜粋)について編集委員が感じたことをまとめています。

ホームページもぜひ、ご覧ください。

三木市男女共同参画に関する市民意識調査報告書はこちら⇒



回答者の年齢	家事に関する能力	経済力	礼儀正しさ	行動力	協調性	たくましさ	やさしさ	自立心	忍耐力	無回答
20歳代以下	22.9	17.9	67.2	23.9	41.8	14.9	55.2	31.3	7.5	1.5
	22.4	38.8	49.3	40.3	25.4	17.9	46.3	35.8	17.9	1.5
30歳代	28.6	24.2	51.6	26.4	33.0	16.5	64.8	37.4	11.0	3.3
	15.4	40.7	40.7	47.3	24.2	27.5	44.0	40.7	16.5	1.1
40歳代	25.8	33.9	51.6	22.6	27.4	9.7	51.6	45.2	16.1	3.2
	12.9	54.8	37.1	51.6	21.0	24.2	33.9	37.1	22.6	1.6
50歳代	43.8	30.3	51.7	15.7	39.3	7.9	49.4	42.7	7.9	2.2
	27.0	59.6	34.8	34.8	34.8	18.0	32.6	39.3	13.5	1.1
60歳代	35.1	33.6	58.0	18.3	35.9	6.9	58.8	36.6	15.3	0.8
	20.6	63.4	45.0	36.6	27.5	19.1	30.5	40.5	18.3	1.5
70歳代	33.8	24.8	62.8	13.1	40.7	2.1	51.0	44.8	12.4	2.8
	8.3	70.3	29.7	45.5	29.0	13.8	13.1	51.0	23.4	4.8
80歳代以上	37.3	32.2	57.6	8.5	32.2	6.8	52.5	42.4	16.9	3.4
	5.1	64.4	33.9	49.2	37.3	20.3	10.2	39.0	27.1	5.1

女の子に身につけてほしいこと

男の子に身につけてほしいこと



＝子育て世代のわたしが子どもたちに期待すること＝

三木市の市民意識調査を見てみると、「女の子に期待すること」と「男の子に期待すること」が違っていることがわかります。多くの世代で「女の子に期待すること」のトップは「礼儀正しさ」。一方、「男の子に期待すること」のトップは「経済力」となっており、男性に「経済力」を頼る（頼りたい？）社会の風潮が垣間見えます。

それにしても、このアンケート、見れば見るほど興味深い発見があります。若い世代の間では「女性も働く」という意識が広がっていると推測されるのに、女の子に「経済力を身につけてほしい」と最も望んでいる年代は40歳代、次が60歳代、80歳以上と続いているのです。

年齢を重ねた世代の人のほうが「女の子も経済力を身につけてほしい」と思っているようです。「若い人たちは女の子に経済力は求めないの？」と思いがちですが、実は20歳代以下は、男の子にも「経済力」を強くは求めない傾向にあるようなのです。20歳代以下で、「男の子に期待すること」のトップは「礼儀正しさ」。「やさしさ」「行動力」の次にやっと「経済力」が出てきます。どうやら、若い年代は、男女ともに「経済力」より「礼儀正しさ」を身につけてほしいと思っているようなのです。

さて、それでは子育て世代、40歳代のわたしは、子どもたちに何を期待しているのか考えてみました。

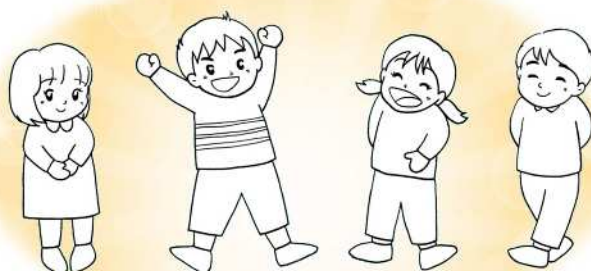
そうですね…私は男の子、女の子ともに「経済力」でしょうか。20歳代以下と同じ意見にはなりません（笑）。

「お金が一番大事」とは言いませんが、自立して、元気に楽しく健康に過ごすには、やはり男女ともに経済力が大事だという考えに至りました。

同じ年代、同じ性別でもいろいろな考えがあって、その考えはお互いに尊重し合うものだと思います。子どもも決して親の思うようには育たず、子どもには子どもの考えがあって、親はそれをハラハラ、ソワソワしながら見守り、尊重し、時には意見しながら子どもとともに育っていくのでしょうか。

皆さんはこの調査結果を見て、どのような感想を持たれましたか？「自分とは違う考えがあるんだなあ」と、いろいろな考えがあることを認め合う社会であればいいなあと思います。

(編集委員：O)



=== 「職場における女性管理職の割合」について ===



男女共同参画センターの貸し出し図書「豊岡メソッド人口減少を乗り越える本気の地域再生手法」を借りて読みました。

著者で前豊岡市長の中貝宗治さん*1が人口減少に対する地方創生として、ジェンダーギャップ*2の解消に取り組んでおられたことが大変興味深いと思いました。

中貝さんは著書の中でジェンダーギャップが生じた理由として次の2点を挙げておられます。

● 女性は出産・子育て期が能力を高めていく時期と重なり、幅広いスキルを習得する機会が少なくなっている。

● アンコンシャス・バイアス*3と固定的な役割分担意識によって、女性が本来もっている能力を十分に発揮する機会が奪われている。

そのうえで多様化しつつある市民ニーズや市の課題に対応するためには、多様な人材が行政の意思決定に関与することが不可欠であり、女性職員のキャリア形成を支援するとともに、組織全体で意識改革を進めていく必要があると結論付けられました。

また、豊岡市の2018年職員意識調査によれば、重要な役職を担いたくない理由について「自信がない」「リーダーシップをとることが苦手」「ワーク・ライフ・バランスがとれなくなりそう」が上位となり、中でも「自信がない」という回答は男性の39.2%に対して、女性は63.1%とスキルアップの機会や経験の不足も関係していることが推測できる結果であったようです。

《 調査結果の対策として 》

- ① 自身のありたい姿を描き、目標の実現を支援するため、上司とのコミュニケーションツールとして「キャリアサポートシート*4」の導入
- ② キャリア形成に関する研修の展開
- ③ 男性の育児休業取得促進

これらを目標に進められました。



三木市の企業や市役所の女性管理職・職員の男女比、市議会議員の女性割合等においても、豊岡市の調査内容や実情は様々な視点で参考になる内容だと思いました。

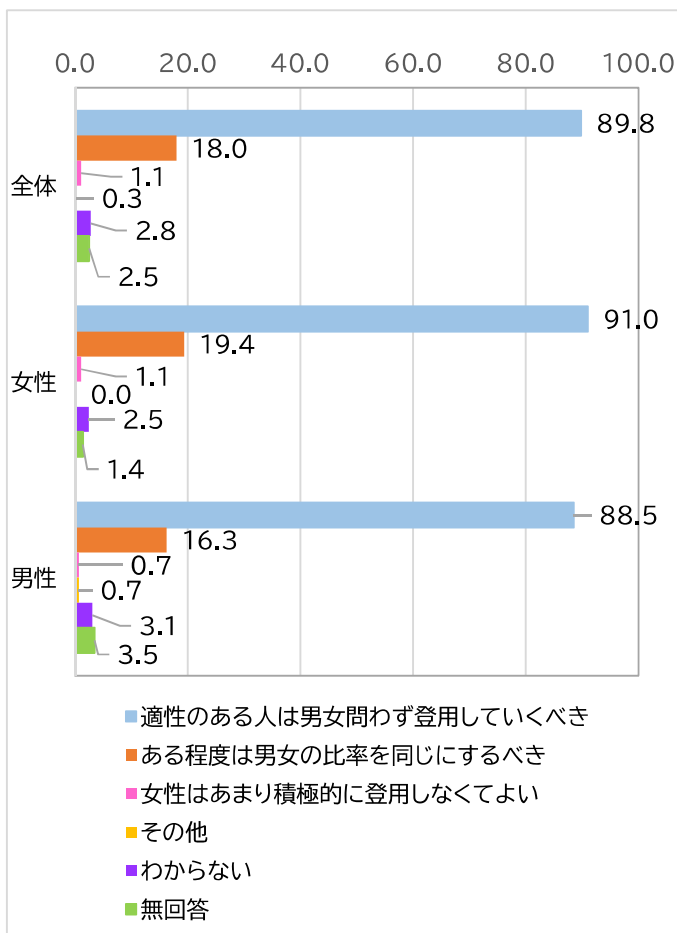
三木市の市民意識調査の結果で「あなたは女性管理職の登用についてどう思いますか」の設問に対し、男女ともにおよそ9割の人が「適性のある人は男女問わず登用していくべき」と回答しています。

自分たちの大切なまちの課題をそれぞれの立場で知恵を出し合い、未来のために可能性を広げていければと願う限りです。

(編集委員：T)

問21

「あなたは女性管理職の登用についてどう思いますか」(いくつでも)



*1 在任期間は2005.5.1～2021.4.30の5期

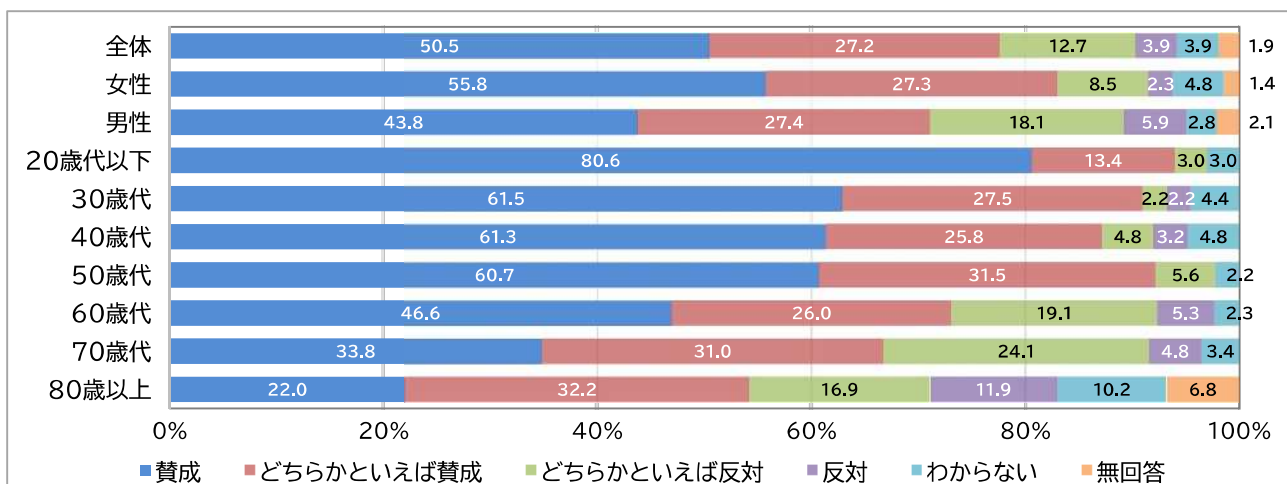
*2 性別の違いにより生じる格差

*3 自分自身では気づいていない「ものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」のこと。自分自身では意識しづらく、ゆがみや偏りがあるとは認識していないため、「無意識の偏見」と呼ばれる。

*4 職員が育児休業取得の意向を記入する欄を設けた独自のシート。このシートをもとに上司と面談し、上司側はあらかじめ業務の分担や計画的な職員の配置ができる。

問7-(1)

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」



＝ 年代別でこんなに違う男女の意識 ＝

市民意識調査報告書から年齢ごとに意識の差の大きいものを拾い出すと、結婚や男女の役割について意識の差が大きいことと、家庭での理想の役割分担が変化していることがわかります。

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という設問に対して、賛成が20歳代以下では80.6%、30～50歳代約61%、60歳代46.6%、70歳代33.8%、80歳以上22.0%と、年齢が下がるにつれて「結婚してもしなくてもどちらでもよい」という意見の割合が大きくなります。

また、問8-家庭での「理想の役割分担」では、家事、家計管理、地域活動、子どもの世話、家族の介護など、ほとんどの項目で男性と女性「両方同程度」の回答が多くなっています。理想としては、生活費の確保の項目を除いて、男女の家庭内の役割分担は対等を望んでいる人が多いことがうかがえます。

しかし、現状の役割分担では、家事、家計管理、子どもの世話において「主に女性」が担っている割合が多く、理想と現実に大きな差があります。

専業主婦の割合が高かった昭和の時代と違って、現在は結婚後も働いて生活費を確保できる女性が多くなっています。

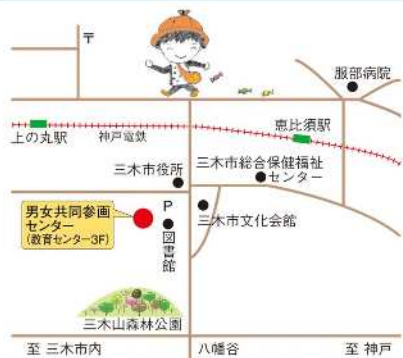
これからの男女の役割は、昭和の時代から引き継いだ日本の助け合い、絆を大切にする社会の良さを守りながらも、全ての世代が生活しやすいように役割を見直すべき時代になっているのではないのでしょうか。

わたしたちアラ還^(※1)世代に出来ることは、諸先輩方や若い世代と共に「守るべきもの」「変えていくべきもの」を考え、一緒に見直していくべきなのだろうと思います。



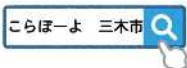
(編集委員:I)

※1 アラ還：還暦(60歳)前後であること。
「アラサー」「アラフォー」から派生した俗語



三木市男女共同参画センター
愛称:こらぼーよ

ホームページから
ご覧いただけます



企画・編集:情報こらぼーよ編集グループ
発行:三木市男女共同参画センター

三木市福井 1933-12 教育センター3 階
TEL:0794-89-2331 FAX:0794-82-8120
開館日時:月曜～金曜 9時～17時(祝日を除く)

＝ 編集後記 ＝

問13「現在の日本社会でどの程度、男女が平等になっていると思うか」

この質問では家庭、学校、職場、政治等7つに分けたどの分野においても「男性が優遇されている」と答えた人が前回(2016年)の調査結果より増えています。これは実際にますます男性が優遇される社会に変化した訳でなく、「男女平等」に対する課題意識の向上により、この回答結果になったのではないのでしょうか?この意識変化が現状変化につながればと願います。

(編集委員:G)